隱沼の花

（憐める友K・S・君に捧ぐ）

森深く小暗き沼に
人知れぬ花ぞ咲きける、
手弱女の白き素足を
底干なき淵に沈めて。

誰が爲に汝は生ふるや——
答なき沼の憂鬱、
終日を花は嘆きぬ、
苔蒸せる老樹の蔭に。

腐れたる岸邊の岩は
彩れる光の憎惡。
饒え伏せる蟲の骸は
限りなき生命の呪詛。

嗚呼されど裸形の春に
空翔ける小鳥の叫び、
隱沼の花の心も
何時の日か顫ひ初めにき。

注ぎ入る清き光に
烏羽玉の闇も薄れよ。
花は今、腕伸ばしぬ、
新たなる脈の躍りに。